itami 伊丹市
阪急阪神ホールディングス株式会社

PRESS RELEASE
平成２７年１１月９日

伊丹市 と 阪急阪神ホールディングスによる協働事業

「伊丹市安全・安心見守りネットワーク事業」に関する協定締結について

１,０００台規模の防犯カメラを用いたインフラ整備は「日本初」

＜内容＞

伊丹市（市長：藤原保幸）と阪急阪神ホールディングス株式会社（社長：角和夫）は、子どもや認知症高齢者の位置情報を、家族ら保護者に通知するサービスを実施するにあたり協定を締結します。

伊丹市は「住み続けたいまち伊丹」の実現を図るため、犯罪の抑止効果を高め、安全・安心なまちづくりを推進しています。また、阪急阪神ホールディングスでは、幅広い世代の方に、安全で安心して暮らしていただける沿線・街づくりをめざしていることから、グループの阪神電気鉄道が展開する「登下校ミマモルメ」の仕組みを活用し、「伊丹市安全・安心見守りネットワーク事業」として協働事業を実施することになりました。

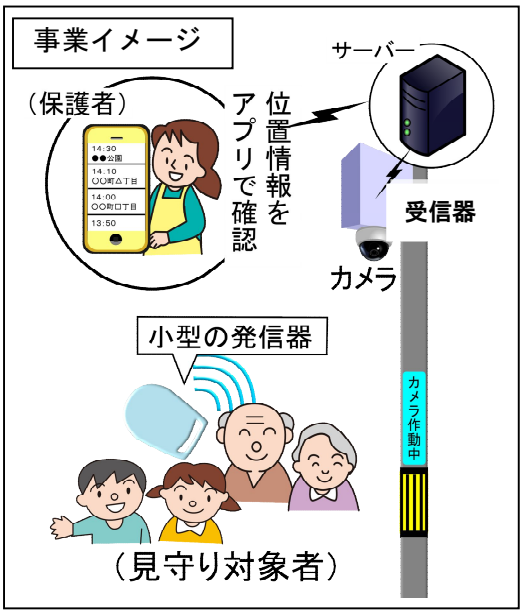
ビーコン※小型無線受信器を取り付けた防犯カメラ「安全・安心見守りカメラ」を伊丹市内に設置し、子どもや認知症高齢者の位置情報を、家族ら保護者に通知するサービスを１，０００台規模の防犯カメラを用いたインフラを整備して行う事業は「日本で初めて」となります。

※ ビーコン･･･小型の無線技術を活用した発信装置

主な事業内容と役割分担について

①事業内容

伊丹市内各所に整備した、ビーコン小型無線受信器を備える１，０００台の「安全・安心見守りカメラ」は、子どもや認知症高齢者が携帯する、小型の発信器の電波を捕捉し位置情報として保護者に知らせます。また、子どもや認知症高齢者等が行方不明になり捜索が必要な場合は、保護者の捜索要請に基づき、捜索に協力するボランティア市民に、行方不明者の写真や位置情報を提供したり、対象者が近くにいると、捜査協力者のスマートフォンに知らせたりするアプリケーションを開発します。



②伊丹市の役割

・１，０００台の「安全・安心見守りカメラ」の整備
・ボランティア市民の募集、啓発活動

③阪急阪神ホールディングスの役割

・アプリケーションの開発
・伊丹市安全・安心見守りネットワーク事業の運営
・加入促進

④サービス開始

２０１６年３月（試験運用開始）

【添付資料】

補足資料「さらなる安全・安心により『選ばれるまちへ』」

＜お問い合わせ先＞
伊丹市安全・安心施策推進班　TEL:072-784-8120　FAX:072-780-3531
阪急阪神ホールディングス　グループ経営企画室　広報部　TEL:06-6373-5092

伊丹市安全・安心見守りネットワーク事業
さらなる安全・安心により「選ばれるまちへ」

伊丹市

～安全・安心見守りカメラ1,000台設置と社会インフラとしての多目的利用～

１,０００台の「安全・安心見守りカメラ」設置を予定

ⅰ．通学路を中心とした地域防犯対策（1小学校区50台×17小学校区）　850台
ⅱ．中心市街地・河川等の災害監視、事件・事故等の多発箇所の監視対策　150台
▶ ネットワークを構築（有線・無線）

安全・安心見守りカメラ作動中

設置目的

- 事件・事故の抑止
- 事件・事故の早期解決（捜査機関への画像提供）
- 自然災害の現状把握と減災対策
- 行方不明者（子ども・認知症高齢者）の捜索
- 交通量調査など市の施策のための基礎資料調査

まち全体のセキュリティを高くして
「選ばれるまち」へ

社会インフラとしての特徴

- 約25km²の市内に1,000台という高密度で「安全・安心見守りカメラ」を設置→約160m四方に1台
- 有線もしくは無線の情報ネットワークが構築されている
- 新たな機能を付加するために別途電源を用意する必要がない

この特徴を活かし社会インフラとして
さらなる安全・安心の機能を付加

ビーコンを活用したさらなる安全・安心なまちづくり

ビーコン（Beacon）とは　小型の無線技術（Bluetooth）を活用した発信装置

メリット	•発信機がコンパクト（500円硬貨程度の大きさ） •電池寿命が長い（1年程度）※GPSは1週間程度 •室内でも利用可能 •スマートフォンにも内蔵されている技術 •距離を推測する機能がある •比較的安価（数千円程度） •スマートフォンで一定の距離に来るとポップアップ・振動させることが可能
デメリット	•ビーコン受信器がなければ位置情報がつかめない

1,000台の安全・安心見守りカメラと同時に、ビーコン受信器を設置することで、さらなる安全・安心なまちづくりのための社会インフラとして多目的利用が可能ではないか

子ども 高齢者 見守り

- 安全・安心見守りカメラでは、抑止力や犯罪発生時の早期解決に威力を発揮するが、見守り対象者の居場所はわからない
- 団塊の世代が後期高齢となる2025年には認知症高齢者が700万人に激増することが推計されている

地域懇談会では、カメラを使った認知症高齢者の徘徊対策の要望

➢市内各所にビーコン受信器を整備し、ビーコン発信器を見守り対象者に所持させることで、対象者の居場所を把握することができ、保護者の安心が実現する

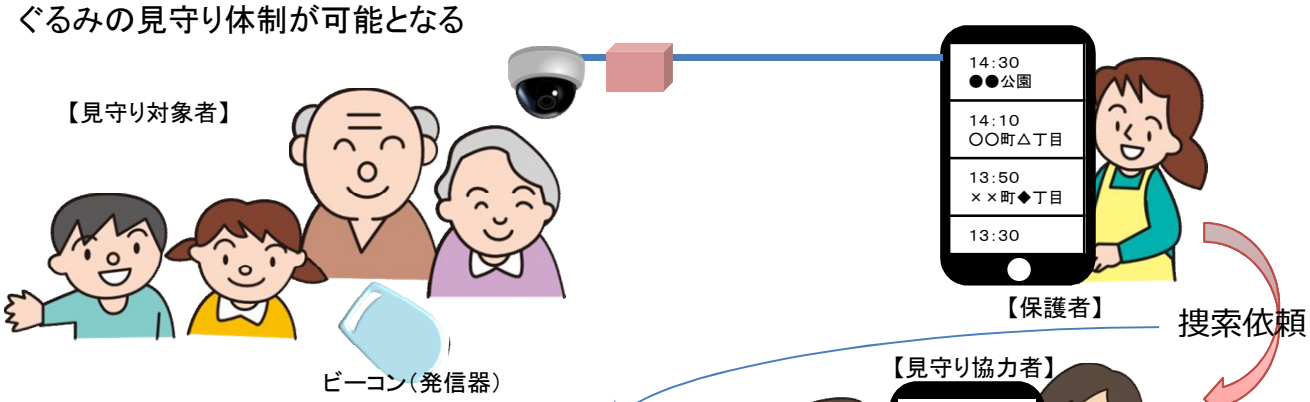
子どもの通学・塾・遊び　｜　認知症高齢者の徘徊　｜　障がい者の通所　等

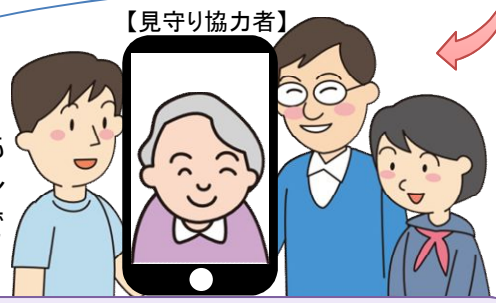
ビーコンによる時間と場所の特定により安全・安心見守りカメラ画像確認が容易に

カメラとビーコンの相乗効果で見守り実現

➢室内でも対象者の発信器が保護者のスマートフォンから設定する範囲（数十メートル）離れると、警告音とバイブレーションで通知する・・・迷子防止・徘徊防止

➢見守り協力者のスマートフォンに見守りアプリをインストールしてもらうことにより、見守りネットワーク（人的）を構築し、見守り対象者の写真等の情報や位置情報を提供したり、対象者が所持している発信器が協力者に近づくとバイブレーションやポップアップで知らせることで、地域ぐるみの見守り体制が可能となる





スマートフォンに見守りアプリをインストールする見守り協力者が多ければ多いほど、センサーの数が増えることとなる【1,000カ所＋見守り協力者数】

顔や服装を配信
※顔がわからなくても近づけばバイブレーションやポップアップで対象者識別可能

小型・安価でGPS電波の届かない室内でも使用可能
⇒ビーコン技術とスマートフォンのセットでなければ実現しない機能

安全・安心見守りカメラやビーコン受信器等を新たな社会インフラとして、今後も多目的利用を検討

＜お問い合わせ＞
伊丹市　安全・安心施策推進班
〒664-8503　伊丹市千僧１－１
Tel　072-784-8120　　Fax　072-780-3531